

地方都市における交通問題

Food C1251604 菅原幸奈

・他チームの発表を聞いて

他チームの発表を聞いてどのチームにも感じたことは、オリジナリティがとでもあったということだ。自分のチームもオリジナリティがあると思っていたが、それを上回るような驚きと発見、そして、私だったら「思いつかないな」という解決策が沢山あった。

発表を聞いて参考になったのは「2班のオムライス」だ。2班は事故ゼロの街を挙げていた。高齢者の事故を減らすために、不注意を減らすために、道路環境をよくするためにという三つを指摘していた。解決策として、「レインボーロード」というものを挙げていた。道路を光らせたり音を出したりする仕組みだ。時間帯によって午前中は音で、午後は色を使ってなど、使い分けたり、特に注意が必要なところに目立つ色を使ったりと、参考になる部分がたくさんあった。

地方都市における交通の問題を総合的に解決するため自分の意見自分たちのチームでは、地方都市における交通問題の原因として、車依存であることに注目した。車依存が進むことによって事故のリスク増加や公共交通機関の衰退、地域経済の停滞といった問題が生じていると考えた。14班の発表を踏まえて生活圏に商業施設があまりないということと公共交通機関の利便性が悪いということを追加する。これらを踏まえると、課題を解決するためには「高齢者でも移動しやすい環境づくり」「公共交通機関を使う文化の定着」「車社会のデメリットをしっかりとらえること」の三つの視点が重要であると考えた。

そのためには、「公共交通機関を使うことによる得」と「車に頼ることによる損」を体験的に伝えることが必要である。この二つの視点を軸に解決策を考えることで、市民一人一人が自分事として交通問題を捉えられると考えた。

これらを共通して解決するためには、公共交通機関を利用すると特典を得られる仕組みづくり、公共交通機関の利用促進をアナウンスする広報活動、公共交通機関の利用と連携させたイベントの開催、高齢者向けの割引券や定期券の発行が有効であると考えた。

これらの視点から、ビジョンとして「公共交通機関による得」と「車による損」を設定した。チームで検討した際は、単に利用を呼び掛けるだけでなく、実際に使ってもらうことで意識が変わるという点を重視したため、このビジョンを設定した。

具体的な解決策の一つ目として、公共個通期間を利用することで特典が得られる仕組みを導入することがあげられる。例えば、運賃割引や地域店舗で利用できる特典を配布することで、公共個通期間を利用するきっかけを作ることができる。この施策により、利用者数や利用頻度の増加が期待される。一方で、財源の確保が課題となるため、自治体や民間事業者との連携が必要不可欠である。

二つ目の解決策として、公共交通機関の利用促進を積極的にアナウンスすることがあげられる。ローカル番組での広報やバス・電車内での車内アナウンスを通じて情報を発信することで、市民が公共交通機関について自分事として捉えるきっかけを作ることができる。しかし、運行本数が少ない、乗り継ぎが不

便であるなど、実際の利便性が低い場合には説得力に欠けるという課題もある。

三つ目の解決策は、公共交通機関の利用と連携させたイベントの開催である。イベント参加に公共交通機関の利用を条件とすることで、利用のハードルを下げるとともに、新たな利用者を増やす効果が期待される。ただし、周知や運営に手間がかかる点が課題であり、継続的な実施には工夫が求められる。

四つ目の解決策として、高齢者向けに割引券や定期券を発券する施策があげられる。これは公共交通機関の利用促進だけでなく、運転免許の返納のきっかけになる点でも意識が大きい。しかし、対象が高齢者に限定されることで、不公平感が生じる可能性があり、世代間の理解を得ることが課題となる。

一方で、チームでの検討に加えて、財源の確保や運営の負担、不公平感といった課題も明らかになっている。ただし、これらは行政や地域、民事事業者が連携することで、改善できる可能性があると考えられる。これらの実施により、公共交通機関の利用者増加や交通安全の向上、地域の活性化が期待できる。一方で、実施には継続的な検討が必要であり、制度計画や周知方法の工夫が今後の課題である。

以下のように、地方都市における交通問題は、単に移動手段の問題にとどまらず、地域社会全体の在り方と深くかかわっている。公共交通機関の価値を再認識し、車に依存しない移動を実現するためには、市民が「公共交通機関による得」と「車による損」を実感できる取り組みを積み重ねていくことが重要であると考えられる。